

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターまな星		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 48
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	2025年 1月 8日		2025年 1月 8日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 40
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育や発達検査を通して対象児の行動を観察したり分析したりしており、十分なアセスメントを元に訪問を実施している。	日頃から療育後の振り返り等で子ども理解を深めている。多職種で子どもを見守ることにより、様々な視点や捉え方を持ち寄ることができる。	訪問の有無に関わらず、就園している場合は園での様子を日頃からお聞きするようにする。
2	こどもの発達特性に応じた捉え方や見方について説明することができる。また、具体的な場面における声のかけ方、状況に合わせた支援方法についてアドバイスができる。	療育の中でいろいろな手立てや方法を試行し、こどもが自発的に適切な行動を取るために有効と思われる方法は何かを探り、検証している。有効と思われることを、保護者の方や園の先生にお伝えしている。	療育で使用している絵カードや視覚物等を持参し、有効と思われる方法を具体的にお伝える。
3	保護者の方や園の先生からのご希望により実施しているため、三者で情報共有をすることができる。	訪問については、保護者の方から園に打診をしていただき、了解を得て実施するようにしている。そうすることで三者の情報共有の円滑化を図っている。	共有する内容は、保護者の方、園の先生の双方にとって有益であるよう伝え方に留意する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	希望された方、みなさん1回程度の実施状況である。	療育との兼務で、複数回の実施が難しい。希望はあるが、短期間での訪問が妥当と考えにくい場合、保護者の方と相談して時期を調整している。	保護者の方や園の先生から訪問希望がある場合、必要に応じて複数回の訪問を検討する。
2	園の先生と電話等で対応についてお話できるとお知らせしているが、周知されていない。	年度始まりのオリエンテーションでお伝えし、その後は訪問を希望された方に随時お知らせしているため、意識されにくいと考えられる。	園の先生との情報共有は訪問の有無に関わらず行うことができることを折に触れてお話しする。
3	保護者の方からお話がないと、訪問後の様子についての聞き取りが十分できていない。	当日の療育のお話をすることに重点を置いてしまっていたり、個別のお話ができても時間が十分とれていなかったりすると思われる。	グループ担当者が、日頃から園での様子等を個別にお聞きすることを意識する。